

2022/1/20

(うときゅういっきの「これからは」 お互い、だるまさん状態の仕掛けあいつこはやめませんか?) 書庫版



最初から要求レベルが高すぎるとロクな事にはなりません。

参加者が大幅に減るからです。

可能性のある人をスポイルしたり、スロースターターの可能性をも鼻から排除してしまったりする事になるからです。

最初から完成形を求めても同じことです。

参加者や志願者の意欲を減退させ、参加できていれば育ったかもしれない「可能性の芽」をチャレンジの開始前に摘んでしまうからです。

大工の親方がその日やってきた弟子に自分と同じレベルの技量と職人哲学を当日に求めているようなことです。

仮にもしその弟子が何十年と掛かった親方の修行をその場その時に達成したらどうするのでしょうか?その棟梁は。

そんなことはあり得ないし、あってもらっては困るくせに、それをいきなり求めて「近頃の若造はなっとらん」というのはある意味卑怯ですし意地悪でもあります。

なのに、

わが国ではこういった事態がそこかしこで横行し、若い人に代表される新参者は困り果て、気の弱い人は鼻から参加自体を自重してしまいます。

なので、人を育てようと思うなら原理原則は

「初めのバー（とっかかり）は可能な限り低く設定する」

ことが肝要でしょう。

後は

「徐々にそのバーを引き上げていく」

か

「徐々に引き上げず同じレベルを保つなら達成までの時間を長くとり」
ことが大切でしょう。

とにもかくにも、初めから高すぎる要求を突き付けたり、鼻から完成形を相手に求めたりしてもロクなことにはならないことだけは確かです。

前年同月比売上 10%アップを「チャレンジ予算」というならまだ「何とか達成しよう」という気にもなりますが前年同月比 50%アップを「チャレンジ予算」というと構成員は「これは他人事だ。聞き流しておくしかない」と初っ端からやる気をなくしてしまうのが世の通例です。

それは

「もし自分が言う立場ではなく、言われる立場だったらどうか？」
を想像してみればすぐにわかることです。

「手も足も出ない」

ことが、すぐにわかるはずでしょう。

ですので、

お互い自国民同士の、手足を出そうにも出せない「だるまさん状態」の仕掛けあいつこみた
いな意味不明で無益なことはいい加減やめることに致しませんか？

言い出した手前、まずは最低限、言い出しっぺの自分はやめることに致します。